

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第17号 平成25年7月7日

運をも味方に付けた達脇の勝利投手

5盗塁以上は勝利への道？

	1	2	3	4	5	6	7	R
A	0	0	0	0	0	0	0	0
G	1	0	0	1	0	1	×	3



7/7(日)梅雨明けした猛暑真っ盛りの中、池上新田公園野球場に向き、アグレッシブとのオープン戦を行った。マリンでのアップの時には、メンバー1人が熱中症になるかと思われたが、周りの気遣いにより、事なきを得たが、やはり、重要なのは、自分の体は自分で守るという事だと改めて痛感させられた。さて、ゲームだが、2試合ぶりの達脇が、マウンドに上がりプレイボールとなった。いつもの事だが、立ち上がり非常に気になるが、今回も多分に漏れずの立ち上がりであった。何と3連続四球で、相手チームは劣せず無死満塁、初回から大量失点の予感が過る中、相手4番を三球で見逃三振に斬る。しかし、次打者には、ボールが3つ続き、押し出して失点かと思った4球目を打者が放ったが、その打球は、ライナーでショート正面へ、これを捕球し二塁に送球、結果DPを奪取し、この大ピンチを0点に抑えた。その裏の攻撃、こちらも先頭@哲也が四球を選択し出塁、次打者の時に、二盗を決め無死二塁、二番智が絶妙なバントを決め、無死一・三塁、三番打者の時に智が二盗を決め、無死二・三塁、大量得点の予感が走る。3番祐太郎の打球は、サード後方にフラフラと上がった打球、これを野手が捕球出来ずに、三塁より走者が生還し、1点を先制した。この打球処理の間に二塁智が三塁を狙うも、判断誤りで二塁にてアウト、4番の時に祐太郎が二盗を決め進塁、結果4番も四球を選択し一死一・二塁、しかし5番打者の際に、三盗を試みたが、サードタッチアウト！これで二死となる。続く5番も凡打に倒れ、この大量得点のシーンが最少得点の1点とまりと非常に嫌な結果で初回を終えた。2回以降の達脇は、その後も四球を出す、それ以上でもそれ以下でも無いマウンド裁きで5回でマウンドを降りたが、結果0封でリリーフの政司にマウンドを任せた。打線とは言えば、4回に緑川の安打を皮切りに、深沢の相手失策による出塁、浅沼の遊ゴロを6-4-3のDPを狙いに行ったが、二塁手の送球が悪送球となり、緑川が二塁よりホームインし今日2点目を挙げた。更に6回の攻撃、この回先頭のジローが打撃妨害にて出塁、5番打者へのWPで二塁へ進塁、この場面で、昨期は安打1本で終わった浅沼が、3球目を振り抜き、レフト前に打球を打ち3点目を挙げ、今日のゲームを勝利にぐっと引き寄せた。達脇からマウンドを任せられた政司は、6回に失策で走者を一人陀出したものの、打たせて取るピッチングで2回をびしょりと抑え、きょうのゲームを勝利した。今日のゲームのキーはまさに初回の走塁、最近初回にゲームが動くパターンが多いが、まさに今日のゲームもそのとおり、相手投手の立ち上がりを付け込んだにも関わらず、自らの失敗と結果盗塁死という形での終息はその回以降への影響は多大である。よって、たかが盗塁・走塁だが、この辺もベンチのムードを下げる事なく、取り組みたい。ただ、積極性の走塁が悪いという事では無い、という事だけは理解してもらいたい。その結果がもたらす内容も考えよう！という事。野球は最後に点数を多く取ったチームが勝ちというゲームなのでだから。これから、暑さは日に日に増します。水分の取り過ぎによる体調不良に気を付け、今後の中盤の戦いにそなえようではないか！と思います。それにしても、初回のライナーで達脇は非常に助かりました・・・